

編集後記

前任の編集委員長の関根正美先生のご指名を受け、今号の編集委員長を拝命しました。日体大アンチ・ドーピングガイドブックの編集、アンチ・ドーピング研修会講師、ドーピング検査員など、学内外でアンチ・ドーピング活動を行ってきたことで、研究所発足時から所員としてアンチ・ドーピングに関するプロジェクト研究を担当し、本誌の編集委員として編集関連業務にも積極的に取り組んできたことなどが評価されたと考えています。

さて、本誌では、以前よりアンチ・ドーピングに関する論文を掲載してきましたが、今回、特集テーマとして初めて「オリンピックとアンチ・ドーピング」を取り上げました。3名の先生からは、それぞれのご専門に基づいた質の高い論考をいただきました。日本のアンチ・ドーピング教育・政策の課題や日体大におけるアンチ・ドーピング教育の課題についても明確になったと思います。

原著論文は1編です。テキストマイニング分析からオリンピズムの価値教育について日仏の比較をしたもので、興味深い内容です。研究ノートはインタビューをもとに4編の投稿をいただきました。オリンピック・パラリンピックにボランティアとして参加した方々は、皆、様々な学びを得て、その後の人生にも少なからず影響を受けたことが読み取れます。スポーツを「支える」人の心に大きなムーブメントを起こすことも、スポーツの価値と言えるのではないのでしょうか。

2021～2022年度の2年計画で立案・実行された研究所のプロジェクトについては、各研究代表者より2年分の報告をしていただきました。2023年度から新たなプロジェクトが始まりますが、これまでの研究成果を土台にして、さらなる発展を期待したいと思います。

前号に続き、今号でも「東京2020オリンピック・パラリンピックの記録」に、多くの卒業生・在学生在が記事を寄せてくれました。私も東京2020大会のオリンピックでは会場医療責任者を、パラリンピックではドーピング検査員を務めましたので、各選手の体験記を読んで、同じ空間・時間を共有した者として胸が熱くなりました。選手の皆さんの今後の活躍を祈りたいと思います。

最後に、ご多忙の中、今号にご寄稿をいただいた方々、審査の労を取っていただいた方々、並びに編集にご協力いただいた方々に、心から感謝申し上げます。

編集委員長 成田 和穂